

中学校社会科単元計画【歴史的分野：江戸幕府の成立と対外関係】

【単元のねらい】江戸幕府の成立と対外関係について、江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に考察し、結果を表現する活動を通して、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。

【単元のめあて】江戸幕府が約260年も続いた理由をまとめ、説明し合おう。

【単元の課題】江戸幕府はどのように成立し、国内を治めるためにどのような政策を行ったのか。

江戸時代が約二六〇年続いた理由をまとめ、振り返っていく。

1時

【課題】江戸幕府はどのように成立し、支配を固めていったのか。

【活動】主な大名の配置図や武家諸法度の資料から、江戸幕府の政策の意図を考察する。

【まとめ】大坂夏の陣を経て、江戸幕府は全国を支配するために幕藩体制を確立し、武家諸法度という法律などを定めて、大名を厳しく統制した。

2時

【課題】江戸幕府はどのようにして人々を支配していったのか。

【活動】身分別の人口の割合や百姓の生活心得などの資料から、暮らしが制限された理由を考察する。

【まとめ】身分制をさらに強め、特に全人口の85%を占める百姓からは、安定して年貢を取るため、贅沢をしないよう生活の細部まで規制した。

3時

【課題】江戸幕府の対外政策は、どのように変化したのか。

【活動】江戸幕府が鎖国政策に踏み切った理由を、キリスト教の広がりや一揆と関連付けて、考察する。

【まとめ】江戸幕府は貿易を振興していたが、キリスト教が全国に広がり、一揆も起きたため、禁教を徹底し、幕府による貿易統制・外交独占の鎖国体制を築いた。

4時

【課題】鎖国の中、日本は世界とどのように結ばれていたか。

【活動】鎖国の中でもつながりを持った国や地域について調べ、発表する。

【まとめ】鎖国の中でも、オランダや中国との交易、朝鮮との交流、琉球を通じた貿易、北方との交易をしていたアイヌなど、結び付きがあった。

【単元のまとめ】江戸幕府は全国を支配するために幕藩体制を確立し、武家諸法度という法律などを定めて、大名を厳しく統制した。また、身分制をさらに強め、特に百姓からは、年貢を取るため、生活の細部まで規制した。キリスト教が全国に広がり、一揆も起きたため、禁教を徹底し、幕府による貿易統制・外交独占の鎖国体制を築いた。しかし、鎖国の中でも、オランダや中国との交易などがあつた。

6時

【単元の振り返り】(視点)江戸幕府が約260年も続いた理由を図や文章にまとめ、班の中で説明し合うことを通して、単元の振り返りとする。